

【事業報告書】

提出年月日：2015/4/10

実施年度	2014 年度	担当部署	北海道支部
------	---------	------	-------

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会の開催

名称	2014 年度北海道支部大会
日時	平成 26 年 6 月 28 日
場所	北海道教育大学札幌校
目的	大学英語教育及び関連分野の理論及びその実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的に開催した。
対象	支部会員・その他の英語教育関係者および英語教育に関心のある者
規模	70 人程度
広報	1. 支部会員に対しては支部ホームページとフライヤーを通じて宣伝した。 2. 支部以外の会員とその他の英語教育関係者に対しては、支部ホームページ、英語教育関係の他団体・組織のメーリングリスト等を通じて行った。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 講演 山内ひさ子（長崎県立大学教授・JACET 副会長） 「グローバル人材育成に必要な異文化間コミュニケーション力」 ➤ 研究発表① Jeremie Bouchard (Hokkai Gakuen University) “Interrogating the Current Push towards Monolingual EFL Education in Japanese Secondary Schools” ➤ 研究発表② 中津川雅宣（北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院） 「アクティブラーニング教室を利用したプロジェクト型英語教育について：エスノグラフィーを通してのローカルな視点の育成」 ➤ 研究発表③ Akinobu Shimura (Hokkaido University of Education), Yoshiki Yokoyama (Hokkaido University of Education), Aiko Sano (Hokkaido Bunkyo University), Yuko Sakai (Hokkaido Sapporo Intercultural and Technological High School), Yasushi Kawai (Hokkaido University) “Assessing Instructional Events Using the MOLT and COLT Observation Schemes” ➤ 研究発表④ Yuko Sakai (Hokkaido Sapporo Intercultural and Technological High School), Sean Scarbrough (Hokkaido Sapporo Intercultural and Technological High School) “Developing student critical thinking skills through public forum speeches” ➤ シンポジウム 「英語リーディングフルエンシーを科学する」 講師 1：川崎真理子（関西学院大学）「文字処理レベルとリーディングフルエンシ

	<p>一の関連」</p> <p>講師 2：氏木道人（関西学院大学）「CELP-test によるリーディングの流暢さの測定」</p> <p>講師 3：中西弘（東北学院大学）「ワーキングメモリ容量とリーディングの流暢さの関係について」</p> <p>講師 4：門田修平（関西学院大学）「シャドーイングは Reading Fluency の向上に効果がある？」</p> <p>講師 5：松本広幸（北海学園大学）「ストラテジー、ビリーフ、動機づけからの Reading Fluency の向上」</p>
成果	<p>1. グローバル人材育成に関する最新の動向に関する知見を深めた。</p> <p>2. EFL 学習のクラスルームにおける最新の研究成果を多角的に学ぶ機会となった。</p> <p>3. リーディングフルエンシーをテーマとしたシンポジウムから、リーディングの脳内処理から学習者の動機づけ、指導効果に至るまで科学研究の成果を知ることができた。</p>

(3) 支部研究会の開催

名称	2014 年度北海道支部研究会
日時	第 1 回：平成 26 年 5 月 31 日 第 2 回：平成 26 年 11 月 8 日 第 3 回：平成 27 年 3 月 7 日
場所	第 1 回：北海道医療大学 第 2 回：札幌学院大学 第 3 回：藤女子大学
目的	大学英語教育、および関連分野の理論と実践に関する調査・研究の発表を行うことを目的に開催した。
対象	支部会員，その他の英語教育関係者，および英語教育に関心のある者
規模	各回 30 人程度
広報	<p>1. 支部会員に対しては支部ホームページを通じて宣伝した。</p> <p>2. 支部以外の会員とその他の英語教育関係者に対しては、支部ホームページ，英語教育関係の他団体・組織のメーリングリスト等を通じて行った。</p>
内容	<p>第 1 回</p> <p>【統計ワークショップ】「私たちは学習者を正しく評価しているのか～測定と尺度のはなし 長谷川聡（北海道医療大学）</p> <p>【特別イベント】「私の先週の講義プリント」参加者が講義用教材を持ち寄り、ミニプレゼン</p> <p>第 2 回</p> <p>研究発表① Hiroko Miura, Toshiyuki Sakabe (Hokkaido University of Science), Akiko Shibata (Sapporo Otani University), Masashi Takemura (Hokusei</p>

	<p>Gakuen University Junior College), Megumi Yamada (Hokkaido Pharmaceutical University), Hisashi Naito (Hokkai-Gakuen University) “Using English during an Internship in Singapore - Vocabulary Analysis” 研究発表② Hisashi Naito and Mark Matsune (Hokkai-Gakuen University) “An ESP approach to overseas study program for business administration Students” 研究発表③ Yukie Ueno (Hokkai-Gakuen University), Kyoko Morikoshi (Hokusei Gakuen University Junior College), Tomohiko Oda (Sapporo University) “Implementing MICE (Meetings, Incentives, Conventions, Exhibitions) in English Classes” 研究発表④ Yasushi Kawai (Hokkaido University) “University English Education Needs Analysis” 研究発表⑤ Bricklin Zeff (Hokkai-Gakuen University) “Nice to meet you: Teaching the Speech Act of Greetings in Japan” 研究発表⑥ Kenta Hosoki (Otaru University of Commerce) “Enhancing instructional motivation for English among Japanese undergraduates” 第 3 回 研究発表① Satomi Fujii (Graduate School of Hokkaido University) “Foreign Language Teaching Anxiety among Pre-service EFL Teachers in Japan” 研究発表② Masanobu Nakatsugawa (Otaru University of Commerce) “English as a commodification in Late Capitalism?: A critical analysis of the JTEs view of the current language policy in Japan”</p>
成果	<p>1. 支部ホームページに報告を掲載した。 2. 本研究会の研究成果や知見が支部会員の研究活動に大きな道標となった。 3. 互いの広報活動と交流を通じて、JALT Hokkaido、北海道英語教育学会、日本コミュニケーション学会北海道支部との連携を図る機会となった。</p>

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行 (2号事業)

(1) 『支部紀要』12号の刊行

名称	北海道支部紀要 Research Bulletin of English Teaching No.12
日時	平成 26 年 3 月 10 日
目的	支部会員の多様な観点に基づく学術研究を奨励し、論文発表(研究論文および教育論文)の機会を提供することを目的とした。

対象	支部会員・他支部・本部・支部の英語教育関係諸団体
規模	B5 52 ページ 200 冊
内容	1. 査読結果に基づき、研究論文 2 編を掲載した。 2. 紀要委員会にて編集および校正を行った。
成果	1. 支部会員、他支部の事務局、本部、支部の英語教育関係諸団体に 1 部ずつ送付した（本部には 5 部）。 2. 執筆者に研究成果を公表する場を提供するだけでなく、会員が研究情報を得ることでさらに活発に研究を促進することに寄与した。

Ⅲ. その他 (5 号事業)

(1) 支部総会の開催

名称	2014 年度北海道支部総会
日時	平成 25 年 6 月 28 日
場所	北海道教育大学札幌校
目的	支部活動について会員の理解を深め、支部運営を円滑に進める目的で開催された。
対象	支部会員
内容	2014 年度の事業報告を行い、2015 年度の事業計画と人事案を提示した。また、その概要を支部ホームページに掲載した。
成果	会員に活動動向の周知を図り、審議することを通して、支部運営を円滑に進め、かつ会員の帰属意識を向上させることに寄与した。

(2) 支部役員会の開催

名称	2014 年度北海道支部役員会
日時	第 1 回：平成 26 年 5 月 31 日 第 2 回：平成 26 年 10 月 11 日 第 3 回：平成 27 年 1 月 31 日
場所	第 1 回：北海道医療大学 第 2 回：北星学園大学 第 3 回：藤女子大学
目的	支部運営について、支部役員レベルで審議・検討した。
対象	支部役員
内容	2014 年度事業計画（支部大会、研究会の運営等）、2014 年度人事案、ならびに 2015 年度事業計画と人事案、その他としてホームページ更新等について検討した。また、JACET 第 55 回国際大会に備えて実行委員会を発足し、仕事内容の確認、役割分担を行った。
成果	円滑な支部運営に寄与した。